

事業等名	みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち スマート農業の総合推進対策（令和５年度要求）	担当部局	農林水産技術会議事務局研究推進課
------	--	------	------------------

【現状・課題】 ・農業の現場においては少子高齢化等のため、担い手が減少。 ・農薬散布や収穫・運搬などの長時間・重労働。 ・生産性の向上と人手不足に対応するため、ロボット、ＡＩ、ＩｏＴ等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装の加速化が必要。	【現状・課題を示すデータ】 農業労働力の減少（Ｈ27→Ｒ12：208万人→140万人） 外国人材への依存の高まり（Ｈ26→Ｒ2：1.7万人→3.8万人） 基幹的農業従事者の平均年齢（Ｈ22→Ｒ2：66.2歳→67.8歳）
---	--

インプット	アクティビティ	アウトプット	アウトカム (短期)	アウトカム (中期)	アウトカム (長期)	インパクト
R5要求額：3,942 R4：1,404 R3：1,359 R2：1,500 (百万円)	①スマート農業産地モデル・環境保全型農業の現場実証 【一部R5新規】 ②次世代スマート農業技術開発・実用化 【R5新規】 ③ペレット堆肥活用促進のための技術開発・実証 ④農林水産データ管理・活用基盤の強化 ⑤データ駆動型農業の実践・展開を支援 ⑥スマート農業技術を含む施設園芸の事業可能性調査を支援 ⑦ロボット技術安全性確保策の検討 ⑧土壌診断DBの構築等を支援 ⑧スマート農業教育の取組を支援	①開発・実証計画数 ②WAGRIに実装されたデータ・システム数 ③データ駆動型農業の実践体制構築に取り組む都道府県数 ④スマート技術を含む施設園芸の現地生産の事業化可能性調査を実施した地域数 ⑤安全性の検証等を行うロボットの機種数 ⑥土壌診断DB構築のために収集したデータ数 ⑦動画コンテンツ作成数	①年度計画の目標を達成した計画の割合 指標① ②WAGRIの新規利用者数 指標② ③これまで施設園芸が進出していない地域に生産拠点を持つ企業数 ⑥安全策を策定して市販化が実現されたロボットシステムの数 ⑦土壌診断DBを活用する都道府県の数 ⑧スマート農業をカリキュラム化した農業大学校数	データを活用した農業に取り組みたいと考える農業者の割合 指標③ 指標④ 指標⑤ 指標⑥	農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践 指標⑦ 指標⑧	データと先端技術のフル活用による「スマート農業」の実現を通じた農業の持続的発展(Society5.0の実現)

指標① 必要なデータが収集されているか等の外部委員の評価結果が「B（目標どおり）」以上の開発・実証計画の割合 R2:77%（目標:80%）、R3:79%（目標:80%）、R4目標:80%、R5目標:80%、最終目標年度R7:最終目標80%	指標④ 安全策を策定したロボットシステムのうち市販化されたシステム数を集計 R2:9（目標:7）、R3:9（目標:8）、R4目標:9、R5目標:10、最終目標年度R7:最終目標12	指標⑦ 実証成果の情報発信や学習会等のアウトリーチ活動等の際にアンケートを実施（令和５年度目標）
指標② WAGRIの新規利用者数 R2:17者（目標:15者）、R3:33者（目標:15者）、R4目標:15者、R5目標:15者、最終目標年度R7:最終目標15者	指標⑤ 土壌診断DBを活用する都道府県の数 R2:6（目標:7）、R3:6（目標:15）、R4目標:22、最終目標年度R4:最終目標22	指標⑧ 農林業センサスにより、データを活用した農業を行っている農業経営体数を集計（令和７年度目標）
指標③ これまで施設園芸が進出していない地域に生産拠点を持つ企業数 R3:1社（目標:3社）、R4目標:3社、R5目標:3社、最終目標R5年度:最終目標3社	指標⑥ 全国農業大学校協議会調査結果 R2:32校、R3:42校、（R4年度目標：全農業大学校42校）、R4目標:42校、R5目標:42校、最終目標R7年度:最終目標42校	